



透かしを削除する

Wondershare
PDFelement



令和4年度福岡県協会 ルール伝達及び審判講習会

福岡県ハンドボール協会審判長 川端 祐貴



令和4年3月27日（日）
9：00～10：00



Contents

- ① 福岡県協会審判部の新年度事業計画と審判委員会について
- ② 令和4年度の審判員の目標（日本協会より）
- ③ 今後のルール改正の流れについて
- ④ マイハンドボールによる更新登録・新規登録・上級申請について

県協会審判部令和4年度の課題と目標

- 審判委員会（年3回会議実施）を中心とした組織的な審判部としての活動
- 新規D級取得者や長期D級保持者への吹笛の機会増
→C級取得者の増加
- C級レフェリーへの重点的な指導を通して、継続的なB級受験者の育成
- プライベートカップ等を活用した実技講習会の実施
- A級受験者2名合格に向けた支援(筆記試験・実技試験)
- 公認審判員新規定（マイハンドボール）への円滑な移行
- ルール等の情報伝達システムの構築と更新手続き等の効率化と明確化
- インカムマイクを活用したTDと連携した競技運営と指導（TD任務の確立）

2. 全国大会

	月	大会名	開催地	派遣審判員
1	6月	全日本社会人	福井県	
2	7月	クラブ選手権西地区大会	長崎県	※B級審査
3	8月	インターハイ	愛媛県	
4	8月	全国小学生	京都府	
5	8月	全国中学生クラブカップ	埼玉県	
6	8月	ジャパンオープン	鹿児島県	
7	10月	国民体育大会	三重県	
8	8月	全国中学	北海道	
9	9月	全日本ビーチ	神奈川県	
10	9月～	日本リーグ	各地	
11	10月	国民体育大会	栃木県	
12	10月	インカレ	愛知県	
13	11月	車椅子競技大会	福岡県？	4ペア程度準備
14	12月	日本選手権大会(男子)	山口県	
15	12月	全国JOC	徳島県	
16	1月	日本選手権大会(女子)	鹿児島県	
17	3月	全国高校選抜	三重県・岐阜県	
18	3月	日本リーグプレーオフ	東京都	
19	3月	春の全国中学生	富山県	

【全国大会ノミネート候補者】

今泉暢禎・林田誓太郎

佐藤高行・中島敬人

萩原佳明・清水健太

島村奈央美・北原亜佑子

井手孝行・村山功太

林圭介・那須章浩

梶原康司・荒木隆史

3. ブロック大会

	月	大会名	開催地	派遣審判員
1	4月	九州学生春季リーグ	福岡県	数ペア希望者
2	5月	九州クラブ選手権	大分県	1ペア帯同 ※B級審査？
3	6月	全九州高校選手権	熊本県	1ペア派遣
4	7月	九州高専	？	？
5	8月	九州中学	？	？
6	8月	九州ブロック国体	熊本県	1ペア帯同
7	8月	九州学生秋季リーグ	？	？
8	9月	九州日本選手権予選	沖縄県	1ペア帯同
9	10月	JOCカップ予選	大分県	1ペア派遣
10	10月	サニックス国際大会	福岡県	5ペア程度必要
11	12月	九州小学生	沖縄県	派遣なし
12	2月	九州高校選抜大会	佐賀県	1ペア帯同
13	3月	九州中学	沖縄県	派遣なし

※網掛は本県開催大会

5. A・B級受験予定者

A級受験者 萩原佳明
清水 健太
B級受験者 なし

6. 上級申請計画

今泉 暢禎(A級)→R4:JHL	北原 亜佑子(B級)→R6:A級受験
林田誓太郎(A級)→R4:JHL	鈴木 優太(D級)→R5:B級 →R7:A級
清水 健太(B級)→R4:A級受験→JHL	立花 優(C級)→R5:B級 →R7:A級
萩原 佳明(B級)→R4:A級受験→JHL	久保 尚樹(C級)→R5:B級

※その他C級レフェリーに対して重点的に指導を行いB級受験者を輩出する。

D級取得した方は翌年にすぐにC級へ申請しましょう！
C級の方はC級取得2年後にB級審査合格を目指しましょう！
みなさんの審判活動を審判委員会を中心にバックアップします。
いつでもわからないことがあればご相談ください。

7. 審判研修会(予定)

日時	講習会・研修会名	開催地	出席者
5月	高体連審判研修会	アクション福岡	各チーム代表者
6月	中体連審判研修会	未定	中体連関係者
11月	とびうめカップ審判講習会	福岡大学	各チーム代表者
2月	九州審判長会議	オンライン	各県審判長
2月	九州ブロック審判研修会	オンライン	次年度全国 ノミネートレフェリー
3月	県審判研修会	未定	県内登録審判員 及びチーム指導者

9. 実技講習会

8月	高体連強化練習会
12月	高体連強化練習会
随時	その他プライベートカップ等

**コロナに負けずにみなさんと情報共有をしたり、共に経験を重ねることができる機会を多く計画していきます。
HP等で連絡をします。積極的な参加をお待ちしています。**

8. 審判委員会

第1回	5月10日(火)	オンライン
第2回	11月15日(火)	オンライン
第3回	2月14日(火)	オンライン

審判委員会のメンバーを
さらに募集しています。
一緒に県の審判員のチーム
になりませんか？
年3回の会議で情報交換
や課題の共有を図っています。

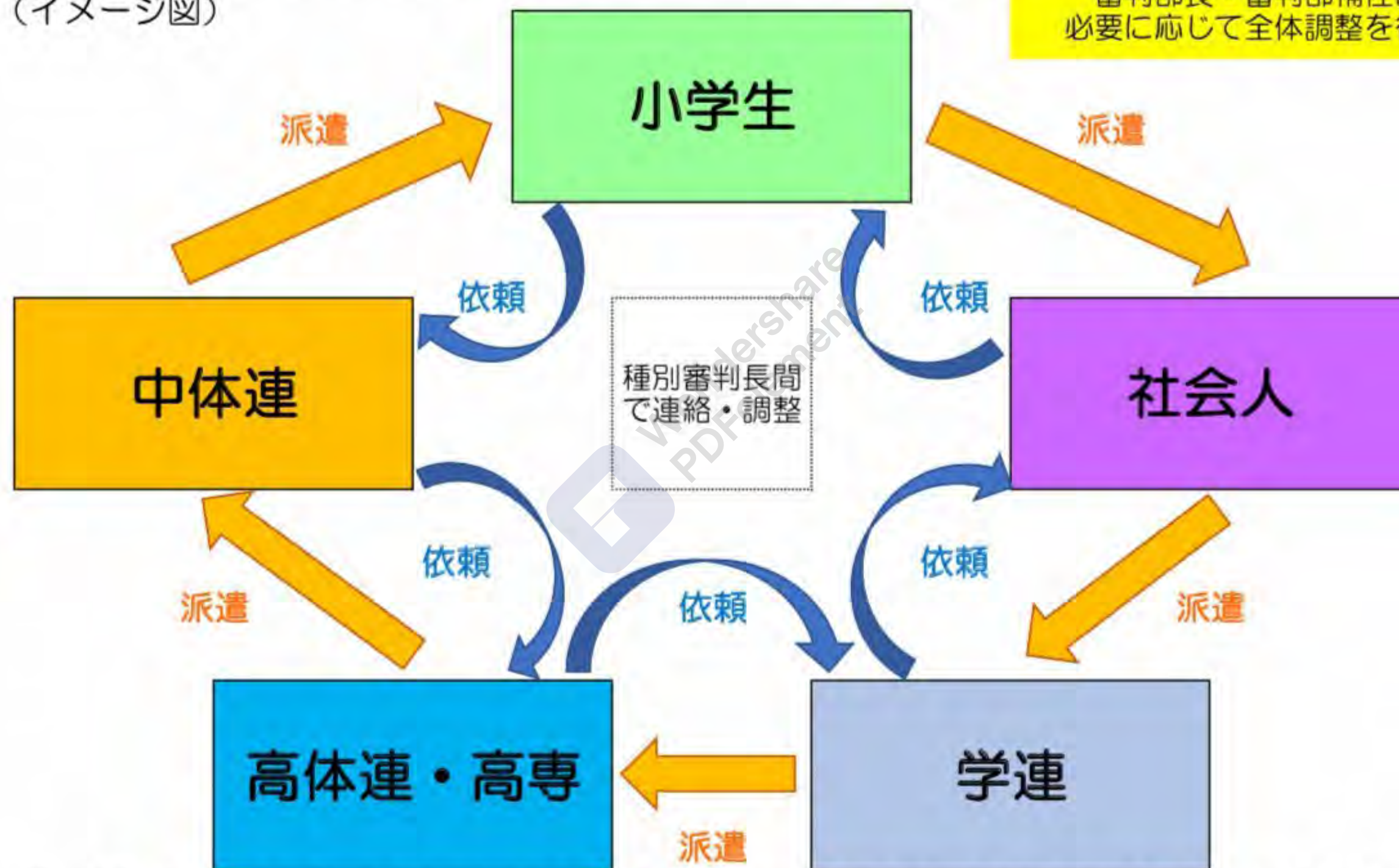
審判部	審判部長：川端 祐貴 (香椎工業高校)		審判部長補佐：今泉暢禎 (築城特別支援学校)	
	種別	審判長	サポートスタッフ	
			指導	普及
	小学生	新井 努 【春吉Jr】	佐々木 克典 【とびうめキッズ】	濱地 棕 【博多インフィニティ】
	中体連	中島 敬人 (大宰府特別支援学校)	佐藤 祐介 【久留米Jr.】	立花 優 【明治学園】
	高体連	村山 功太 【筑紫女学園高校】	林田 誓太郎 【武蔵台高校】	萩原 佳明 【九州産業高校】
	学連	安達 隆博 【九州産業大学】	田代 智紀 【九州共立大学】	梶原 康司 【福岡大学】
	社会人	中島 敬人 (大宰府特別支援学校)	鶴 紘熙 【FHC】	岸本 直樹 【Tribal HC】
	女性レフェリー育成		島村 奈央美 (三筑中)	北原 亜佑子 【香住丘高校】
	ヤングレフェリー育成		佐藤 高行 【明治学園】	鈴木 優太 【福大若葉】
	会計・事務		樋口 貴之 【西南学院大】	

お困りのことやご相談などがあれば各種別の審判委員にお尋ねください。

福岡県協会審判部 審判員相互派遣システム

(イメージ図)

審判部長・審判部補佐は
必要に応じて全体調整を行う



※ あくまでも基本ラインなので、その他の種別へ依頼可能、その他の種別内からの希望者を派遣可能とする。

Contents

- ① 福岡県協会審判部の新年度事業計画と審判委員会について
- ② 令和4年度の審判員の目標（日本協会より）
- ③ 今後のルール改正の流れについて
- ④ マイハンドボールによる更新登録・新規登録・上級申請について

令和4(2022)年度審判本部事業計画



【基本方針および実施計画】

- 1) 審判本部組織の充実とガバナンス機能の強化、および指導体系の強化
 - ① 審判本部組織における各専門委員会の充実と機能強化、ワーキンググループの編成
 - ② ブロック審判長ならびに都府県(北海道各地区)審判員連盟審判長との連携
- 2) 新規規程(公認審判員および公認テクニカルオフィシャル、審判指導者等に関する規程)の導入に伴う現場との連絡・調整
 - ① 「ビーチハンドボール」「テクニカルオフィシャル」「審判インストラクター」の有資格化に伴う、登録・認定システムの構築
 - ② 各公認資格取得者に対する研修内容の充実
- 3) レフェリーの発掘と効果的な育成、指導体制の確立
 - ① レフェリーアカデミー・上級審査会・各連盟と連携した発掘・育成
 - ② 女性レフェリーの発掘・育成(全体の20%、A級10%、並びに各ブロックより全日本大会担当の女性レフェリーの選出と配当を積極的に行う)、中長期的には、レフェリー登録者全体の女性レフェリーの割合を30%とすることを目標とする。

令和4(2022)年度審判本部事業計画



- ③ 新世代に対応した「タイムアウト申請ボタン」「Video Proof System」の開発と導入
- ④ 2022年度競技規則改正に関する情報収集と伝達

5) 国際基準に沿ったトップレフェリーの育成・強化

- ① 国際基準の判定を徹底させるため、技術・情報の分析および迅速な伝達
- ② 国際審判員およびその候補者、日本協会指名レフェリーに対する教育プログラムの構築
- ③ レフェリーの海外派遣研修の企画・実施



令和4(2022)年度審判本部事業計画

【基本方針および実施計画】

1) 審判本部組織の充実とガバナンス機能の強化、および指導体系の強化

- ① 審判本部組織における各専門委員会の充実と機能的なワーキンググループの編成
- ② ブロック審判長ならびに都府県(北海道各地区)審判長、連盟審判長との連携

2) 新規程(公認審判員および公認テクニカルオフィシャル、公認審判指導者等に関する規程)の導入に伴う現場との連絡・調整

- ① 「ビーチハンドボール」「テクニカルオフィシャル」「審判インストラクター」の有資格化に伴う、登録・認定システムの構築
- ② 各公認資格取得者に対する研修内容の充実

各都道府県審判長 様
JHA 審判本部合同委員会委員 様

(公財) 日本ハンドボール協会
審判本部長 福 島 亮 一

来年度（令和4年度）施行予定 新規程（公認審判員および公認テクニカルオフィシャル、公認審判指導者等に関する規程）の施行見送りについて

平素より、大変お世話になっております。

(公財) 日本ハンドボール協会審判本部では、標記の件につきまして令和3年4月より準備を進めて参りました。11月に開催されました第3回 JHA 理事会において、新規程の概要については承認をいただいております。その内容については、12月に開催させていただきました全国審判長会議で説明させていただいた次第です。

しかしながら、本日開催しました第4回 JHA 理事会において、新規程の施行に関し、その内容（有資格者の配置および登録料等の徴収等）に関し、現場の状況を十分に考慮した上で規程の条文を作成すべきではないかというご意見をいただきました。私自身、規程の作成については、現場の状況を十分に把握した上で行うべきであると考えています。したがって、もう少し準備期間を設けるべきであると判断し、本規程施行にかかる、令和4年4月1日からの登録開始、および令和4年9月1日からの施行予定については、見送らせていただく方向で決定させていただきました。皆様方にはお忙し中にもかかわらず、説明会への参加や質問・意見集約等にご協力いただき感謝申し上げます。私自身、より幅広く現場に耳を傾けながら進めて行くべきであったと反省しております。

来年度の審判登録については、令和3年度と同様に（つまり（インドア）審判員のみ）となりますので、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

今後とも、現場の思いをくみながら、混乱がないように丁寧に進めて参ります。有資格制を導入することは見送りになりますが、インドア審判員のみならず、ビーチハンドボール審判員、テクニカルオフィシャル、審判指導員の研修の充実および人材育成は継続して取り組んでいく所存です。引き続きご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

3) レフェリーの発掘と効果的な育成、指導体制の確立

- ① レフェリーアカデミー・上級審査会・各連盟と連携した発掘・育成
- ② 女性レフェリーの発掘・育成（全体の 20%、A 級 10%、並びに各ブロックより全日本大会担当の女性レフェリーの選出と配当を積極的に行う）、中長期的には、レフェリー登録者全体の女性レフェリーの割合を 30%とすることを目標とする。
ジャパンオーブントーナメント・全国中学生クラブチームカップおよび JOC カップにおいて女子の試合を女子レフェリーで担当できることを目標に人材の育成を図る。
- ③ 上級レフェリーの登録者が少ない都道府県に対する支援の充実（審判本部より出向き、研修会の開催）
- ④ ビーチハンドボールレフェリーの発掘・育成

【全国大会ノミネート候補者】

今泉暢禎・林田誓太郎

佐藤高行・中島敬人

萩原佳明・清水健太

島村奈央美・北原亜佑子

井手孝行・村山功太

林圭介・那須章浩

梶原康司・荒木隆史

4) 正しい競技規則運用と適切な競技運営の徹底

- ① 各地講習会および全日本大会における指導内容の統一
- ② 「テクニカルオフィシャル」の有資格化に伴う研修・指導体制の充実
- ③ 新世代に対応した「タイムアウト申請ボタン」[Video Proof System]の開発と導入
- ④ 2022年度競技規則改正に関する情報収集と伝達

5) 国際基準に沿ったトップレフェリーの育成・強化

- ① 国際基準の判定を徹底させるため、技術・情報の分析および迅速な伝達
- ② 国際審判員およびその候補者、日本協会指名レフェリーに対する教育プログラムの構築
- ③ レフェリーの海外派遣研修の企画・実施

○URL：以下のURLからGoogleフォルダーにつながります。

<https://drive.google.com/drive/folders/lrUxe89L2iWjWUX9S0ENuodZwBtQ6-zxY?usp=sharing>

○収納資料

1) 「2022各地における研修資料」フォルダー内

- ①R4(2022)年度審判員の目標 (PDF)
- ②プレゼン R4(2022)年度審判員の目標 (パワーポイント)
- ③プレゼン R4(2022)年度審判員の目標 研究課題について (パワーポイント)
- ④審判員の心得 10箇条 (スライドショー) 昨年度研修会使用

2) 「2022各級公認審判員の目標およびチェックリスト」フォルダー内

- ①2022年度各級公認審判員の目標 (PDF)
- ②2022年度A級審判員の目標 (PDF)
- ③2022年度B級審判員の目標＋チェックリスト (PDF)
- ④2022年度C級審判員の目標＋チェックリスト (PDF)
- ⑤2022年度D級審判員の目標＋チェックリスト (PDF)

3) 「随時掲載用」フォルダー内

現在入っていませんが、後日「令和4年度競技規則適用について～最新の傾向から～」のプレゼンおよび動画版を掲載予定です。

【令和4年度(2022年度)審判員の目標】

令和4年(2022年)1月30日

(公財) 日本ハンドボール協会 競技・審判本部
指導普及本部

1 『審判員の心得 10箇条』

- | | |
|-------------|-----------|
| ① リーダーシップ | ⑥ 身体上 適正 |
| ② 誠実さ | ⑦ ユーモアセンス |
| ③ ルールに関する知識 | ⑧ 勇気 |
| ④ 冷静さ | ⑨ 協調性 |
| ⑤ 正しい判断 | ⑩ 仲間意識 |

2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

ハードプレーとラフプレーの見極め(競技規則 8:1 ~ 8:3)

競技規則第8条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方に適用される。レフェリーは、身体接触の際、両者の位置関係(先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか)と、違反があった場合は、その違反を受けたプレーヤーへの影響を正しく見極めなければならない。

- ① プレーヤーが、競技規則8の1に該当する行為ではなく、不利な位置(前や後ろ)からボールを対象とせず)相手プレーヤーに接触したならば、競技規則8の2、3の判断基準をもとにラフプレーとして判断する。
- ② 競技規則の適用については、競技規則8の3(d)に記載されている「違反行為の影響」を見極めること。違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失って、ボールがどうか、すぐに帰陣できないほどの影響があるかを見極める。もしも、違反はなかったとしても、その違反を受けたプレーヤーがボールと身体を完全にコントロールしている状態であれば、アドバンテージを適用してスピーディーなゲーム展開となるよう、安易に競技を中断してはならない。また、違反を受けたプレーヤーへの影響を見極め、カテゴリーに応じて罰則を適用

【令和4年度(2022年度)審判員の目標】

令和4年(2022年)1月30日

(公財) 日本ハンドボール協会 競技・審判本部
指導普及本部

イン際のピボットの攻防は、どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、通信機器を有効活用する。

【令和4年度(2022年度) 審判員の目標】

令和4年(2022年)1月30日

(公財)日本ハンドボール協会 競技・審判本部
指導普及本部

1 『審判員の心得 10箇条』

① リーダーシップ

② 誠実さ

③ ルールに関する知識

④ 冷静さ

⑤ 正しい判断

⑥ 身体上の適正

⑦ ユーモアのセンス

⑧ 勇気

⑨ 協調性

⑩ 仲間意識

① Leadership / リーダーシップ

「無駄な中断をさせない」という
モダンハンドボールの考え方のもと、
「ボディーランゲージ」「口頭」「笛」等を用いて
チーム・監督に基準等を**明確**に伝える



レフェリーはゲームを管理・運営していく**指揮者**として、
選手にどのようなゲームをさせたいかという**ハンドボール感**、
あるいは**ハンドボール理念**を持たなければならない

② Honesty / 誠実さ

レフェリーは誠実でなければならない

勝敗の行方がどうであっても最善を尽くし、

ひとつひとつを丁寧に...

特に初心者のプレーほど

丁寧に吹笛する必要がある



③ Knowledge of the Rule /ルールに関する知識

ルールを熟知していること、
さらにその根底にある意図・思想を理解する

「吹けば責任」

「何をもって吹いたのか」

反則された者が不利に

反則した者が有利になってはならない



④ Firmness / 冷静さ

感情的になるな！！

瞬間、瞬間に適切な判断をし、

穏やかに振る舞う必要がある

常にゲームの流れ、雰囲気を感じながら

(共感しながら)

信念を持ち、毅然とした判定を



⑤ Good judgment /正しい判断

よく観察し、はっきり確認したものだけを
判定する

決して予測で吹笛してはならない

ただし...

見たものの全てを判定するのではなく、

発展性の有無を見極めることが大切

(アドバンテージルール)



⑥ Good fitness /身体上の適性

素晴らしい笛（タイミング、判定基準）は、良い位置に素早く移動して、適切に判定することから生まれる

レフェリーもアスリート

「We must run, too」

日々、トレーニングを



⑦ Sense of humor /ユーモアのセンス

ユーモアはなくて困るものではないが、もしも

選手を罰するときに微笑を持ったなら...

あるいは伝え方一つにしても...

共にこのゲームを作りたいとする

温かい心（人間性）が

相手に伝わるはずである



⑧ Courage / 勇気

監督・選手が恩師や先輩であっても、ルールはルール



たとえ罰則であっても
勇気を持って公平、的確に
そして毅然と
判定しなければならない

⑨ Cooperation/協調性



競技場には

第三のチーム（レフェリーペア）が存在すること
二人しかいないことを忘れてはならない

またゲームの運営において、

二人で力を合わせて協調するとともに、大会を支える
チーム・競技役員・補助役員と連携することも重要である

⑩ Fellowship /仲間意識

協調性とほぼ同じであるが、
共にハンドボールを支える沢山の**仲間**の存在を認め、
ゲームや大会が終われば、互いを褒め**称**えることも忘れずに



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

ハードプレーとラフプレーの見極め（競技規則 8:1 ～ 8:3）

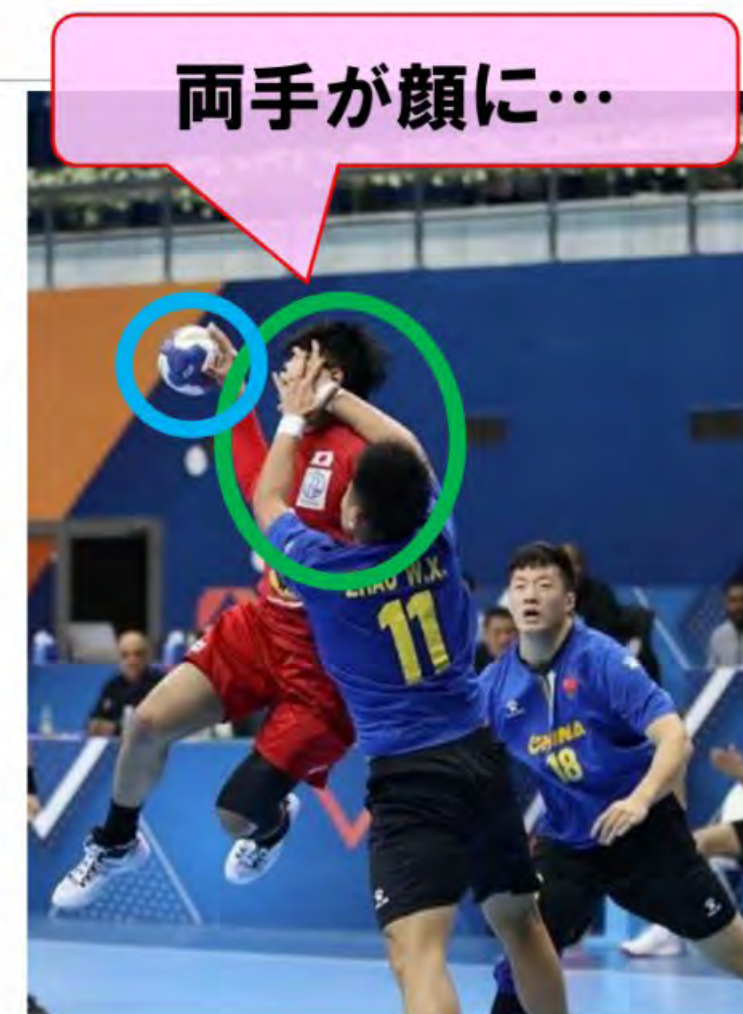
競技規則第8条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方に適用する。レフェリーは、身体接触の際、両者の位置関係（先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか）と、違反があった場合は、その違反を受けたプレーヤーへの影響を正しく見極めなければならない。

- ① プレーヤーが、競技規則8の1に該当する行為ではなく、不利な位置（横や後ろ）からボールを対象とせず）相手プレーヤーに接触したならば、競技規則8の2、8の3の判断基準をもとにラフプレーとして判断する。
- ② 競技規則の適用については、競技規則8の3（d）に記載されている「違反行為の影響」を見極めること。違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失っていないかどうか、すぐに帰陣できないほどの影響があるかを見極める。もしも、違反はあったが、その違反を受けたプレーヤーがボールと身体を完全にコントロールしている状態ならば、アドバンテージを適用してスピーディーなゲーム展開となるよう、安易に競技を中断してはならない。また、違反を受けたプレーヤーへの影響を見極め、カテゴリーに応じて罰則を適用するかどうかの判断をする。（モダンハンドボールの考え方）

- ◆ ボールを対象としていない
 - ◆ 不利な位置から接触をした
- ⇒ **ラフプレー** として判定



- ◆ ボールを対象としていない
 - ◆ 不利な位置から接触をした
- ⇒ **ラフプレー** として判定





令和4年度（2022年度） 審判員の目標

コンタクトプレーを
正しく見極める
～モダンハンドボールの考え方から～



モダンハンドボール



リオ・オリンピック
以降、さらに強調

近年のハンドボール競技の特徴
⇒ 激しいボディークンタクト
スピーディーなゲーム展開

「ハードプレーとラフプレーの見極め」

＜世界基準…日本のプレーヤーが
国際大会で活躍するために＞
われわれレフェリーが、理解し、整理し、
解決していかなければならない課題

コンタクトプレーを正しく
見極めるために



「ハードプレーとラフプレーの見極め」

競技規則第8条「相手に対する動作」
⇒ 攻撃側、防御側の双方にあてはまる

＜身体接触の際＞

- ◆ 両者の位置関係
- ◆ 違反を受けたプレーヤーへの影響

ハードプレーとラフプレーの見極め
(防御プレーヤーの位置と防御行為)

防御行為の **ハードプレー** とは・・・

- ◆ 攻撃側プレーヤーの正面
- ◆ 競技規則 8：1 の状況 (例えば、曲げた腕)
- ◆ 相手の安全面を守る

接触の度合いが強かったとしても
ハードプレー として認める



ハードプレーとラフプレーの見極め
(レフェリングの際のポイント)

【 大切な判断基準 (事実判定の根拠) 】

- ① ボディークンタクトは？
- ② プレーヤーへの影響は？
- ③ ボールに対するプレー？

① ボディークンタクト

⇒ シュートを打ち切ったかどうか **影響**は？

もしも、ボディークンタクトを
失わずにプレーできているならば・・・

- ◆ ゲームの流れを重視
- ◆ 安易に競技を中断しない

7 m スローの判定や
罰則の適用 などにより

モダンハンドボール (ハンドボールの面白さ) を表現する

② プレーヤーへの影響

どの罰則を適用するかについての判断基準 (8：3)

- a) 違反行為をしたプレーヤーの **位置**
・・・相手に対して、正面？側面？後方？
- b) 違反行為が対象とした **身体部位**
・・・胴体？シュートしている腕？脚？頭部？喉？首？
- c) 違反行為の **激しさの程度**
・・・接触の強度は？相手の動きの速さは？
- d) 違反行為の **影響**



DFのコンタクトによる
シューターへの影響を見極める

シューターは、最終的にDF
のコンタクトなしにシュート
を打ち切っている。

ゴールイン。

違反を受けたプレーヤーへの
影響もないため、罰則は不要。

シュートを外したとしても、
そのまま継続。罰則も不要。



即座に2分間退場とすべき違反行為
(8：4)

- a) 衝撃の大きい違反行為や、高速で走っている相手に対する違反
- b) 相手を背後から捕まえ続けること、あるいは引き倒すこと
- c) 頭や喉、首に対する違反
- d) 胴体やボールを投げようとしている腕を激しく叩くこと
- e) 相手が身体のコントロールを失う行為をしようとする事
(例：ジャンプ中の相手の足/脚をつかむ。8：5aを参照)
- f) 高速でジャンプして、あるいは走って相手にぶつかること



開始直後でも、即座に2分間退場もありうる！



令和4年度（2022年度）
審判員の目標

研究課題について

～モダンハンドボールの考え方から～



< 研究課題 >

- ◆ **安心・安全なゲーム運営を心掛ける。** **安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。**
- ◆ モダンハンドボールの考え方については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、**特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。**これには、笛を吹かない判定も含まれる。
- ◆ コーチ、プレーヤーと良好なコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ（Body Language）の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、**どのプレーヤーが最初に違反したかを見極め**ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、**通信機器を有効活用する。**

★ 安心・安全な ゲーム運営



◆ ハンドボールの概念（レフェリーハンドブック P3）

ハンドボールの競技規則の精神は…

相手の身体を傷つけることなく である。



8の4、8の5の適用

しかし、その前にできたことはなかっただろうか？

口頭注意、ボディーランゲージなどで**予防**できることもある。

（モダンハンドボールの考え方）

< 研究課題 >

- ◆ 安心・安全なゲーム運営を心掛ける。安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。
- ◆ モダンハンドボールの考え方については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。これには、笛を吹かない判定も含まれる。
- ◆ コーチ、プレーヤーと良好なコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ (Body Language) の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、通信機器を有効活用する。



言葉かけの工夫

◆ リーダーシップ、誠実さから発せられるべき言葉とは？

「はい、入場して」

「ポイント、ここだよ」

「ユニホーム、つかまないよ」

「先に位置を取ってしっかり止まっているからOKだよ」

「Play on」

「ペアにも伝えておくから」

「ありがとう サンキュー」

「そのまま続けていいよ」

など…

< 研究課題 >

- ◆ 安心・安全なゲーム運営を心掛ける。安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。
- ◆ モダンハンドボールの考え方については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。これには、笛を吹かない判定も含まれる。
- ◆ コーチ、プレーヤーと良好なコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ（Body Language）の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、通信機器を有効活用する。

研究課題



◆ モダンハンドボールの考え方については、 各連盟、カテゴリーの**実態に応じて適用**



- ・ 接触（違反）の**影響**の見極め…**ボディーコントロール**
- ・ **得点の後、GKスロー、前半終了間際のイエローカード**
- ・ チームで3枚のイエローカード など

< 研究課題 >

- ◆ 安心・安全なゲーム運営を心掛ける。安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。
- ◆ モダンハンドボールの考え方については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。これには、笛を吹かない判定も含まれる。
- ◆ コーチ、プレーヤーと良好なコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ（Body Language）の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、通信機器を有効活用する。

研究課題



◆ スピーディーなゲーム展開となるよう 競技規則を適切に運用し、試合を管理する。



- **ゲームの流れを優先し、笛の数を減らす。ゲームを止めない。**
- **怪我をしたプレイヤーへの対応**
- **ゴールキーパー不在の状況での攻撃（特にターンオーバー時）**
- **モップのタイミングやボール交換 など**

< 研究課題 >

- ◆ 安心・安全なゲーム運営を心掛ける。安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。
- ◆ モダンハンドボールの考え方については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。これには、笛を吹かない判定も含まれる。
- ◆ コーチ、プレーヤーと良好なコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ（Body Language）の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、通信機器を有効活用する。

スピーディーなゲーム展開を求める課題 モダンハンドボールとの関連

- 罰則の適用について、オールド・スタイル（6枚のイエローカードを適用し、基準を示すという考え方）が、未だに残っていること。
前半終了間際から後半については、



身体接触に伴うイエローカードは適用しない。

- シニア、大学のレベルでは、罰則（警告：イエローカード）の適用で、得点を取られた後のクイックスローオフやゴールキーパー스로を中断させてはならない。

スピーディーなゲーム展開を求める課題

- 「怪我をしたプレーヤーが倒れていた
(怪我ではないが倒れていることも含む)
場合、速攻やクイックスローオフを中断させて
はならない」という考え方が、チームに浸透していない。
(例え審判が、得点チャンスが消滅するまでその攻撃を認めて
いたとしても、チーム側からタイムアウトを要求してくる。)
- **ゴールエリア内**の床が汗でぬれた場合、安易にモップを入れ
てしまう場面がある。ゴールエリア内は、反対側で攻防が行わ
れている際にモップで拭くことを原則とする。また、ボールの
交換についても安易に受けてはならない。



スピーディーなゲーム展開 負傷したプレーヤーへの対応



負傷したプレーヤーがいる

1st Ref. 『助けが必要ですか』

2nd Player 『はい』 → 『ゼスチャー15』 タイムアウト

『いいえ』 → 様子を見る

(答えない) でも、立ち上がらない

『ゼスチャー15』 タイムアウト

※ 『ゼスチャー15』 タイムアウト → Ref. 『助けが必要ですか』

スピーディーなゲーム展開 負傷したプレイヤーへの対応



『ゼスチャー15』タイムアウト



Ref. : **必ず、最大2名のコート
への入場許可をする**



負傷の原因として、相手に罰則が適用されていなければ
そのプレイヤーはベンチに下がる（3回の攻撃）



< 研究課題 >

- ◆ 安心・安全なゲーム運営を心掛ける。安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。
- ◆ モダンハンドボールの考え方については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。これには、笛を吹かない判定も含まれる。
- ◆ コーチ、プレーヤーと良好なコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ（Body Language）の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、通信機器を有効活用する。



試合開始15分で基準を示す



- **予防**的行動・コミュニケーション
（口頭での注意、ボディーランゲージ）
- 8の1（許される行為）、8の2（許されない行為）、
8の3（罰則あり）の違いを**明確**に示す
- 8の4についての判定（**開始直後**であっても）

< 研究課題 >

- ◆ 安心・安全なゲーム運営を心掛ける。安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。
- ◆ モダンハンドボールの考え方については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。これには、笛を吹かない判定も含まれる。
- ◆ コーチ、プレーヤーと良好なコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ（Body Language）の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、通信機器を有効活用する。

研究課題



- ◆ コーチ、プレーヤーとの**良好なコミュニケーションの取り方**

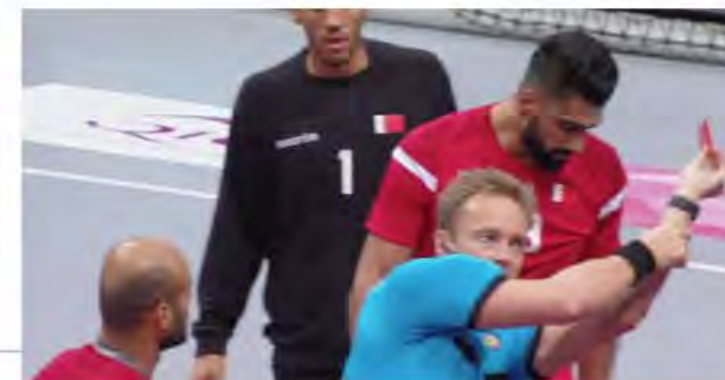
- ◆ ボディーランゲージ（Body Language）の仕方

判断基準をもとに判定の根拠を、適切に口頭で説明できるようにする。



- コミュニケーションを積極的に行うレフェリーが増えた。
- ▲ 判定の根拠が不明確。

研究課題



- ◆ コーチ、プレーヤーとの良好なコミュニケーションの取り方
- ◆ **ボディーランゲージ（Body Language）の仕方**



プレーヤー、コーチ、観衆になぜそう判定したのかが伝わるように『大きく・はっきりと』判断基準をもとに判定の根拠を、適切に説明できるようにする。

< 研究課題 >

- ◆ 安心・安全なゲーム運営を心掛ける。安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。
- ◆ モダンハンドボールの考え方については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。これには、笛を吹かない判定も含まれる。
- ◆ コーチ、プレーヤーと良好なコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ（Body Language）の仕方。判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。
- ◆ ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。このような場面では特に、通信機器を有効活用する。

研究課題



◆ ゴールエリアライン際の判定は、**全てゴールレフェリー**が判定できるようにする。

ただし、ゴールエリアライン際の**ピボットの攻防**は、その攻撃形態に合わせ**ゴールレフェリー**と**コートレフェリー**が連携し、管理をする。



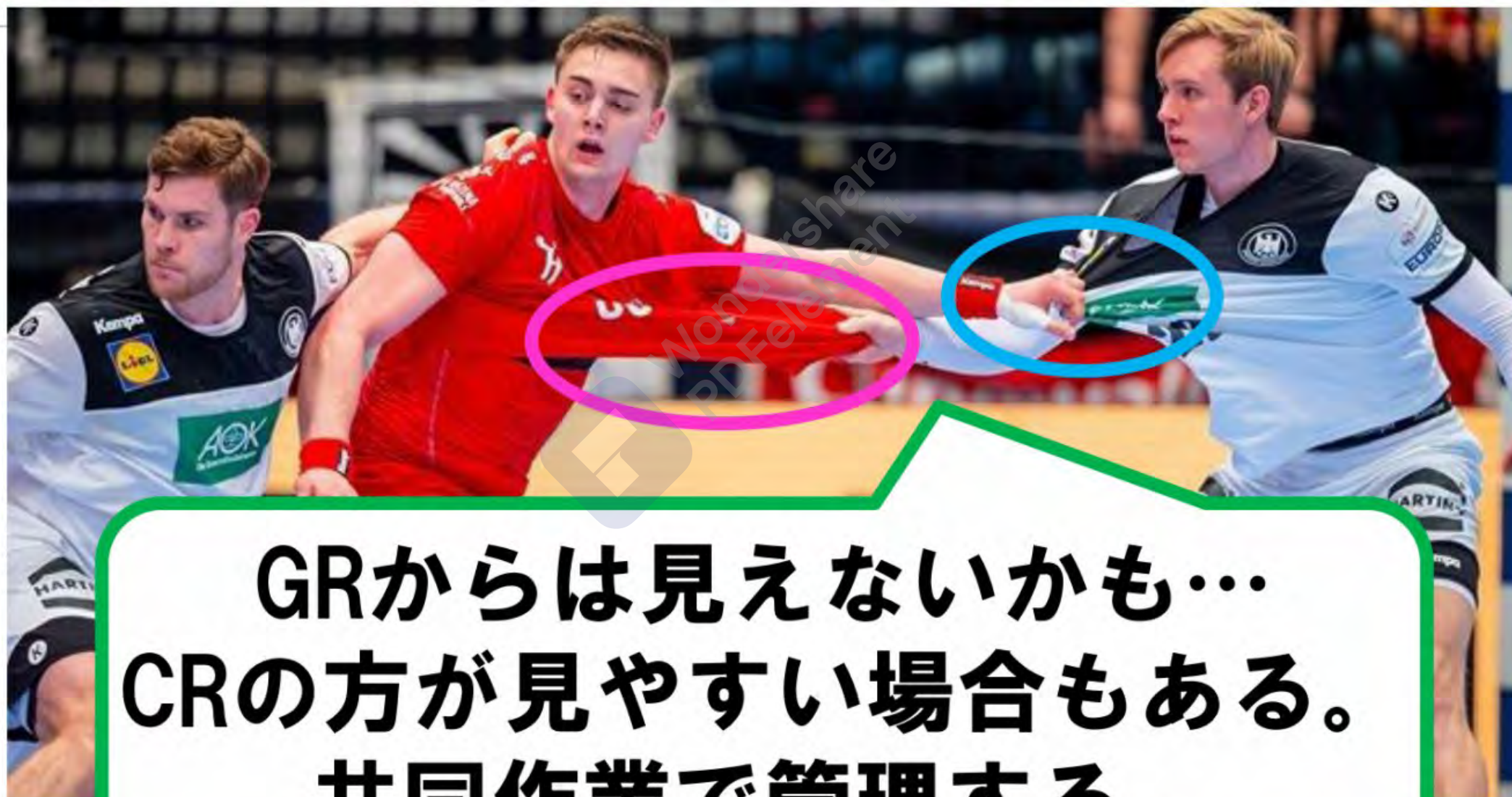
ユニホームをつかむプレー

8の2(c) 相手が自由にプレーを継続できるような状態であったとしても、身体や**ユニホームを捕まえる**こと。

8の3  明らかに（**ボールではなく**）相手の身体を狙った違反に対しては、**罰則を適用**しなければならない。

8の4 危険性を軽視した違反行為（b）**捕まえ続ける**

ユニホームをつかむプレー ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携



GRからは見えないかも…
CRの方が見やすい場合もある。
共同作業で管理する。

ユニホームをつかむプレー 攻撃側がつかむ場合も…



研究課題



◆ ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、その攻撃形態に合わせゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。

共同作業

➡ フリースロー、オフエンシブファール
ブロックプレー、ユニホームの掴み合い など

今後に向けて 審判員の判定(判断)基準の統一のために

- 映像を用いて視覚的に理解を深めていく。
- 伝達手段としての講習会・研修会の在り方を検討する。YouTube等を活用し、浸透を図る。



今後に向けて コーチ・プレーヤーへの理解のために

- 連盟、ブロック、都道府県審判長によるチームスタッフやプレーヤーへの講習会（年度当初、大会代表者会議等）の実施。
- 試合中に審判員とコーチ・プレーヤーとのコミュニケーションによって伝えていく。
- 競技規則研究・審判指導委員の大会への派遣

○URL：以下のURLからGoogleフォルダーにつながります。

<https://drive.google.com/drive/folders/lrUxe89L2iWjWUX9S0ENuodZwBtQ6-zxY?usp=sharing>

○収納資料

1)「2022各地における研修資料」フォルダー内

- ①R4(2022)年度審判員の目標 (PDF)
- ②プレゼン R4(2022)年度審判員の目標 (パワーポイント)
- ③プレゼン R4(2022)年度審判員の目標 研究課題について (パワーポイント)
- ④審判員の心得 10箇条 (スライドショー) 昨年度研修会使用

2)「2022各級公認審判員の目標およびチェックリスト」フォルダー内

- ①2022年度各級公認審判員の目標 (PDF)
- ②2022年度A級審判員の目標 (PDF)
- ③2022年度B級審判員の目標+チェックリスト (PDF)
- ④2022年度C級審判員の目標+チェックリスト (PDF)
- ⑤2022年度D級審判員の目標+チェックリスト (PDF)

3)「随時掲載用」フォルダー内

現在入っていませんが、後日「令和4年度競技規則適用について～最新の傾向から～」のプレゼンおよび動画版を掲載予定です。

Contents

- ① 福岡県協会審判部の新年度事業計画と審判委員会について
- ② 令和4年度の審判員の目標（日本協会より）
- ③ 今後のルール改正の流れについて
- ④ マイハンドボールによる更新登録・新規登録・上級申請について

今後のルール改正の流れについて（日本協会より）

2022 年度競技規則改正に向けて

- ・ 2022 年 3 月 IHF 発表を受けて、国内での実施を検討する
- ・ 「競技規則書 2022 年版」は作成しない。2021 年度版を継承
- ・ 国際試合は 7 月より、国内については各連盟に検討依頼
- ・ 2023 年度（令和 5 年度）より、国内で完全実施とする。競技規則書もこれに合わせる。



とりあえず令和4年度は3年度からルールの改正や変更はなし。
しかし、新年度開始後に改正点について話題になり、各連盟の
全国大会等で施行されていく形となりそう。
令和5年度から完全に新ルールに移行。

JHA JAPAN HANDBALL ASSOCIATION
公益財団法人 日本ハンドボール協会

活動ガイドライン メディア取材 寄付・サポート 関連団体 スポンサー 日本ハンドボール協会について

ニュース 日本代表 日本リーグ 大会・試合 チケット フォトギャラリー ムービーギャラリー コラム 機関誌 グッズ SNS・リ

第45回 全国高等学校 ハンドボール選抜大会

Presented by MIZUNO

～ 繋げ!ゴールへ 勝ちへの想いと感謝を一つに～

3/24 >> 29

(会場)
スカイホール豊田
岡崎中央総合公園総合体育館
名古屋市名東スポーツセンター

第44回大会優勝：名古屋経済大学市営高等学校



Pickup

Pickup 一覧▶

第73回
日本選手権大会
(女子の部)

第30回
JOCジュニア
オリンピックカップ

第25回
女子世界選手権

第73回
日本選手権大会
(男子の部)

JHAへの登

JHA JAPAN HANDBALL ASSOCIATION
公益財団法人 日本ハンドボール協会

活動ガイドライン メディア取材 寄付・サポ

お知らせ 日本代表 大会・試合 関係者イベント 選手育成・競技普及 協会登録

ニュース一覧

ニュース一覧

2022-03-17

競技・審判本部より新競技規則についてのお知らせ

国際ハンドボール連盟(IHF)競技規則審判委員会より、2022年3月1日に新競技規則を発表しました。

詳しくは [競技規則] のページの

- ・新競技規則に関する通知文
- ・新競技規則 変更の概要 (2022年7月1日IHF施行)

をご覧ください。

JHA JAPAN HANDBALL ASSOCIATION
公益財団法人 日本ハンドボール協会

活動ガイドライン メディア取材 寄付・サポート 関連

お知らせ 日本代表 大会・試合 関係者イベント 選手育成・競技普及 協会登録 競技・審判

こちらは競技関係者向けのページです

関係者向けお知らせ

お知らせ一覧▶

2022-03-17	規則	競技・審判本部より新競技規則についてのお知らせ New
2022-03-07	通知・通告	2021年度ハンドボール競技規則改訂における「ボール規程」変更に関して (第七報) New
2022-02-27	育成・普及	『NTSオフィシャルトレーニングテキスト 2021→2022』掲載について
2022-02-08	通知・通告	指導委員会より公認指導者資格取得のガイドライン (第七版) について
2022-02-01	通知・通告	女子日本代表チーム 強化合宿開催へのご協力について
2022-01-24	通知・通告	2021年度ハンドボール競技規則改訂における「ボール規程」変更に関して (第六報)
2022-01-18	育成・普及	「NTS2021 チャレンジトレーニング」募集について
2021-12-31	通知・通告	<重要>糖質コルチコイド使用に関する厳格化について

令和4年3月17日

都道府県協会 審判長、理事長、事務局長 様
ブロック協会 審判長、理事長、事務局長 様
連盟 審判長、理事長、事務局長 様
JHA理事、監事、参事 様

(公財)日本ハンドボール協会競技・審判本部

競技本部長 高野 修

審判本部長 福島亮一

2022新競技規則変更の概要 (2022年7月1日 IHF 施行) について
(通知)

平素より大変お世話になっております。

国際ハンドボール連盟 (IHF) 競技規則審判委員会は、2022年3月1日に新競技規則を発表しました。IHFでは、この新競技規則を2022年7月1日より施行する方向です。大陸連盟 (AHF)、および国内大会においては主催者によりその運用を定めるとされております。

主な変更は以下の4つです。

- 1 ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
- 2 ボールサイズ (外周) について、松やにの使用の有無で分類
- 3 スローオフエリア
- 4 パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更

(公財)日本ハンドボール協会競技・審判本部では、国際大会のカレンダー (IHF、AHF) を参考にしながら、ナショナルチームへの対応も考慮し、その運用に関して、

- 1) 「2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること」
- 2) 「2022年7月1日より運用については各連盟の判断に任せること」
- 3) 「上記2) の2023年4月1日からの運用について」

の3つに大別し、国内での運用を以下の通り定めることとします。

1) 2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること。

- ①ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
(安心・安全な競技運営のため、国内全ての大会で運用することとします)
- ②ボールサイズ (外周) について、松やにの使用の有無で分類



International
Handball
Federation

2022新競技規則 変更の概要 (2022 年 7 月 1 日 IHF 施行)



2022 年 3 月 1 日 IHF 通知

2022 年 3 月 17 日 JHA 通知

(公財) 日本ハンドボール協会 競技・審判本部
競技規則研究専門委員会

国際ハンドボール連盟 競技規則審判委員会は、2022 年 3 月 1 日に新競技規則を発表しました。国際ハンドボール連盟では、この新競技規則を 2022 年 7 月 1 日より施行する方向です。

主な変更は、大きく 4 つです。

- 1 ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用 **※新設**
- 2 ボールサイズ (外周) について、松やにの使用の有無で分類 **※新設**
- 3 スローオフエリア **※新設**
- 4 パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更

(公財) 日本ハンドボール協会競技・審判本部では、国際大会のカレンダー(AHF)を参考にしながら、ナショナルチームへの対応も考慮し、その運用に関して、

- 1) 「2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること」
- 2) 「2022年7月1日より運用については各連盟の判断に任せること」
- 3) 「上記2) の2023年4月1日から運用について」

の3つに大別し、国内での運用を以下の通り定めることとします。

※各連盟に一任しているところについては、各連盟で検討され、その運用の有無について、大会要項に記載してください。

- 1) 2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること。
 - ①ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
(安心・安全な競技運営のため、国内全ての大会で運用することとします。)
 - ②ボールサイズ(外周) について、松やにの使用の有無で分類
- 2) 2022年7月1日より運用について、各連盟の判断に任せること。
 - ①スローオフエリア(使用する か 使用しないか)
 - ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更(6回 または 4回)
- 3) 上記2) の2023年4月1日から運用について
 - ①スローオフエリアの使用については、各連盟の判断に任せます。(継続)
 - ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数は4回とします。

以下に、新競技規則の変更の概要を記載します。なお、新競技規則書(日本語版)については、6月1日の発行にむけて、現在翻訳作業を進めておりますのでご了承ください。

(公財) 日本ハンドボール協会競技・審判本部では、国際大会のカレンダー(AHF)を参考にしながら、ナショナルチームへの対応も考慮し、その運用に関して、

- 1) 「2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること」
- 2) 「2022年7月1日より運用については各連盟の判断に任せること」
- 3) 「上記2) の2023年4月1日から運用について」

の3つに大別し、国内での運用を以下の通り定めることとします。

**※各連盟に一任しているところについては、各連盟で検討され、
その運用の有無について、大会要項に記載してください。**

- 1) 2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること。
 - ①ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
(安心・安全な競技運営のため、国内全ての大会で運用することとします。)
 - ②ボールサイズ(外周) について、松やにの使用の有無で分類
- 2) 2022年7月1日より運用について、各連盟の判断に任せること。
 - ①スローオフエリア(使用する か 使用しないか)
 - ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更(6回 または 4回)
- 3) 上記2) の2023年4月1日から運用について
 - ①スローオフエリアの使用については、各連盟の判断に任せます。(継続)
 - ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数は4回とします。

以下に、新競技規則の変更の概要を記載します。なお、新競技規則書(日本語版)については、6月1日の発行にむけて、現在翻訳作業を進めておりますのでご了承ください。

(公財) 日本ハンドボール協会競技・審判本部では、国際大会のカレンダー(AHF)を参考にしながら、ナショナルチームへの対応も考慮し、その運用に関して、

- 1) 「2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること」
- 2) 「2022年7月1日より運用については各連盟の判断に任せること」
- 3) 「上記2) の2023年4月1日から運用について」

の3つに大別し、国内での運用を以下の通り定めることとします。

※各連盟に一任しているところについては、各連盟で検討され、その運用の有無について、大会要項に記載してください。

- 1) 2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること。
 - ①ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
(安心・安全な競技運営のため、国内全ての大会で運用することとします。)
 - ②ボールサイズ(外周) について、松やにの使用の有無で分類
- 2) 2022年7月1日より運用について、各連盟の判断に任せること。
 - ①スローオフエリア(使用する か 使用しないか)
 - ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更(6回 または 4回)
- 3) 上記2) の2023年4月1日から運用について
 - ①スローオフエリアの使用については、各連盟の判断に任せます。(継続)
 - ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数は4回とします。

以下に、新競技規則の変更の概要を記載します。なお、新競技規則書(日本語版)については、6月1日の発行にむけて、現在翻訳作業を進めておりますのでご了承ください。

新競技規則変更の概要

2022年7月1日より国内全ての大会で実施

1 ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用 ※新設

明らかな得点チャンスの際に、打ったシュートがゴールキーパーの頭部に直撃した場合は、競技規則 8 の 8 により、即座に 2 分間退場を判定すべきスポーツマンシップに反する行為とする。

ゴールキーパーの頭部にボールが直撃したことに対する判断基準

- ・ 明らかな得点チャンスの時のみ適用される。明らかな得点チャンスとは、シュートを打つプレーヤーとゴールキーパーの間に、防御側プレーヤーが誰もいない状況を意味する。
 - ・ ボールが直接ゴールキーパーの頭部にあたった場合のみに適用する。ボールがゴールキーパーの頭部以外にあたった後、跳ね返り、ゴールキーパーの頭部に当たった場合は、罰則は適用されない。
- ※ 2 分間退場を判定した場合は、ゴールエリアの外側から（ボールが頭部に直撃したゴールキーパーのチームの）フリースローで再開する。競技規則 13 の 1 (a)
- ※ 7m スローの実施において、ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した場合についての変更はなく、競技規則 8 の 9 (d) によりこれまで通り失格を適用する。

※明らかな得点チャンスの際、たとえディフェンスに接触されたとしても、ボールと体をコントロールできていれば、シュートしたプレーヤーに罰則を適用する。しかし、7m スローや罰則の適用となるようなディフェンスの違反によって、シューターがバランスを崩してボールをゴールキーパーの頭部にぶつけた場合は、罰則を適用しない。



【明らかな得点チャンスの時，シュートを打つプレーヤーとゴールキーパーの間に，防御側プレーヤーが誰もいない状況の一例】



ゴールキーパーが演技によりレフェリーの判断を欺く場合

- ・ ゴールキーパーがレフェリーの判断を欺くために、**演技を行った場合**（例えば、ゴールキーパーの胸に直撃したにもかかわらず、顔に当たったように見せかける等）は、ゴールキーパーに対してスポーツマンシップに反する行為として、**競技規則 8 の 7 (d) を適用する。**

段階罰

2 ボールサイズ(外周)について、松やにの使用の有無で分類

松やにの使用有無とチームの種別に応じて、使用するボールの外周と重さを次のように規程する。



(a) 松やにを使用する場合 (通常の規程)

松やにの代わりに粘着テープ等を使用する場合も含める

- ・ 成年，高校生の男子用のボール（3号球）

外周 58 ～ 60 cm，重さ 425 ～ 475 g とする。

- ・ 成年，高校生，中学生の女子用および中学生男子用のボール（2号球）

外周 54 ～ 56 cm，重さ 325 ～ 375 g とする。

- ・ 小学生用のボール（1号球）

外周 50 ～ 52 cm，重さ 290 ～ 330 g とする。

(b) 松やにを使用しない ※新設

これは，「松やにを使用しないために作られたボール」を使用する場合を意味する。

- ・ 成年，高校生の男子用のボール（3号球）

外周 55.5 ～ 57.5 cm，重さ 400 ～ 425 g とする。

- ・ 成年，高校生，中学生の女子用および中学生男子用のボール（2号球）

外周 51.5 ～ 53.5 cm，重さ 300 ～ 325 g とする。

- ・ 小学生用のボール（1号球）

外周 49.0 ～ 51.0 cm，重さ 290 ～ 315 g とする。

※ただし，ボールの規程について，日本国内では指導普及本部で別途検討・対応。

競技規則改訂における「ボール規程」変更に関して（第七報）（2022年3月7日付）

【日本国内でのボール規程】

号球	カテゴリー	周囲	重量	備考 (IHFが区分するカテゴリー)
3	成年, 高校生男子用	58～60 cm	425～475 g	・成年男子 ・男子ユース (16 歳以上)
2	成年, 高校生女, 中学生男女用	54～56 cm	325～375 g	・成年女子 ・女子ユース (14 歳以上) ・男子ユース (12～16 歳)
1	小学生用	49.5～50.5 cm	255～280 g	・女子ユース (8～14 歳) ・男子ユース (8～12 歳)
2	中学生男子用	51.5～53.5 cm	300～325 g	・成年女子 ・女子ユース (14 歳以上) ・男子ユース (12～16 歳)
1	中学生女子, 小学生男子用	49.0～51.0 cm	290～315 g	・女子ユース (8～14 歳) ・男子ユース (8～12 歳)
0	小学生女子用	46.0～48.0 cm	255～280 g	

※ 表内, 色つきの箇所は, 「松やにを使用しない場合」のボール規程 (新規程球) です。

※ 3 月 15 日現在, 国内で 3 号球の製造販売はないとのことです。

※ 国内では, 中学生大会・小学生大会において2022年度を「テスト・イヤー」と位置づけ, 全国大会では新規程球を大会球として使用する予定です。

※ 詳細は, 国内の[各大会規程をご確認ください](#)。

3 スローオフエリア ※新設

2022年7月1日より運用については

コートについて

「スローオフエリア」と呼ぶ直径4mの円を、センターライン中央に配置する。(図1b)



スローオフエリアは、以下のいずれかの方法で設ける。

- (a) プレーイングエリアの床とは異なる色で、直径4mのエリアを設ける。
- (b) 直径4mの円をラインで描く。

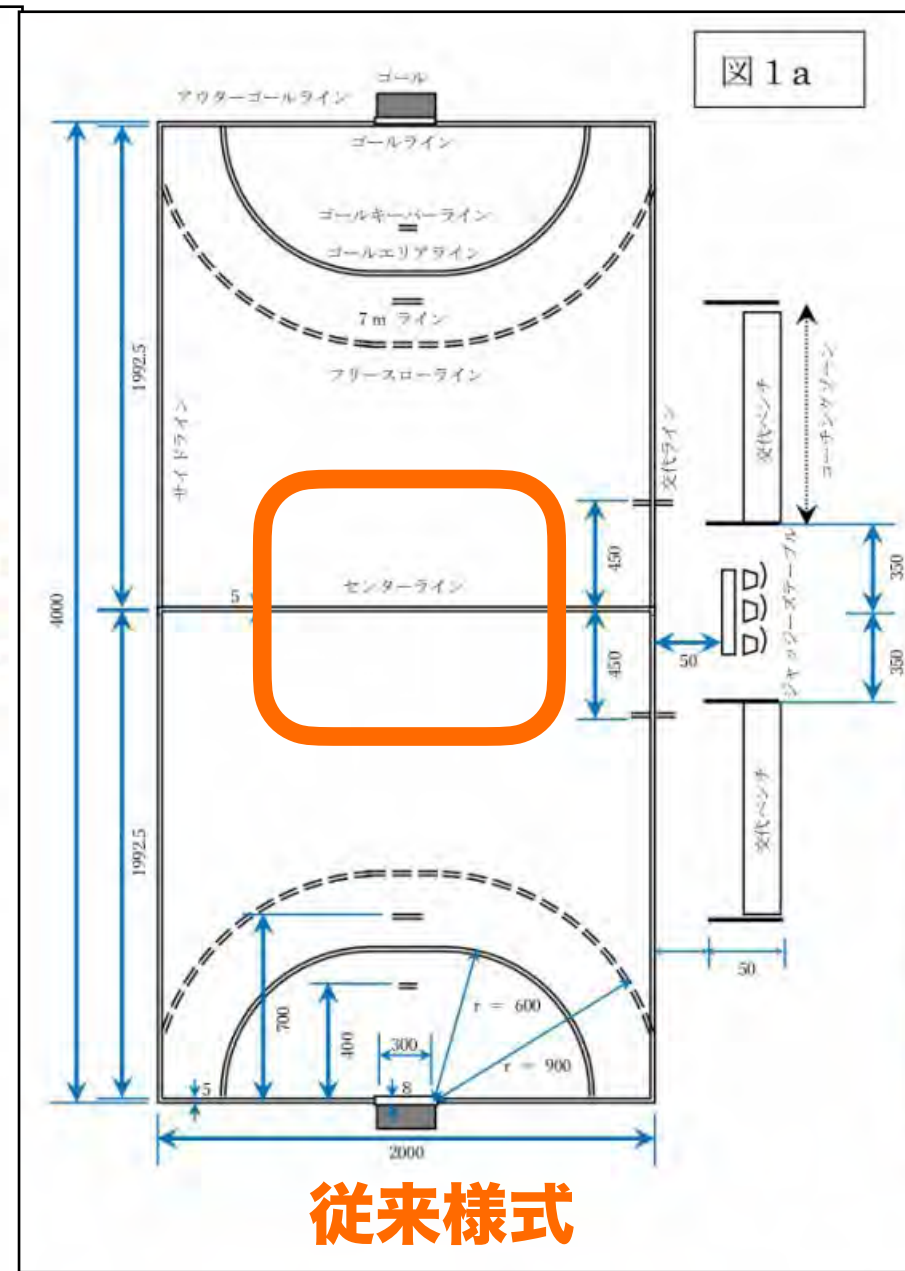
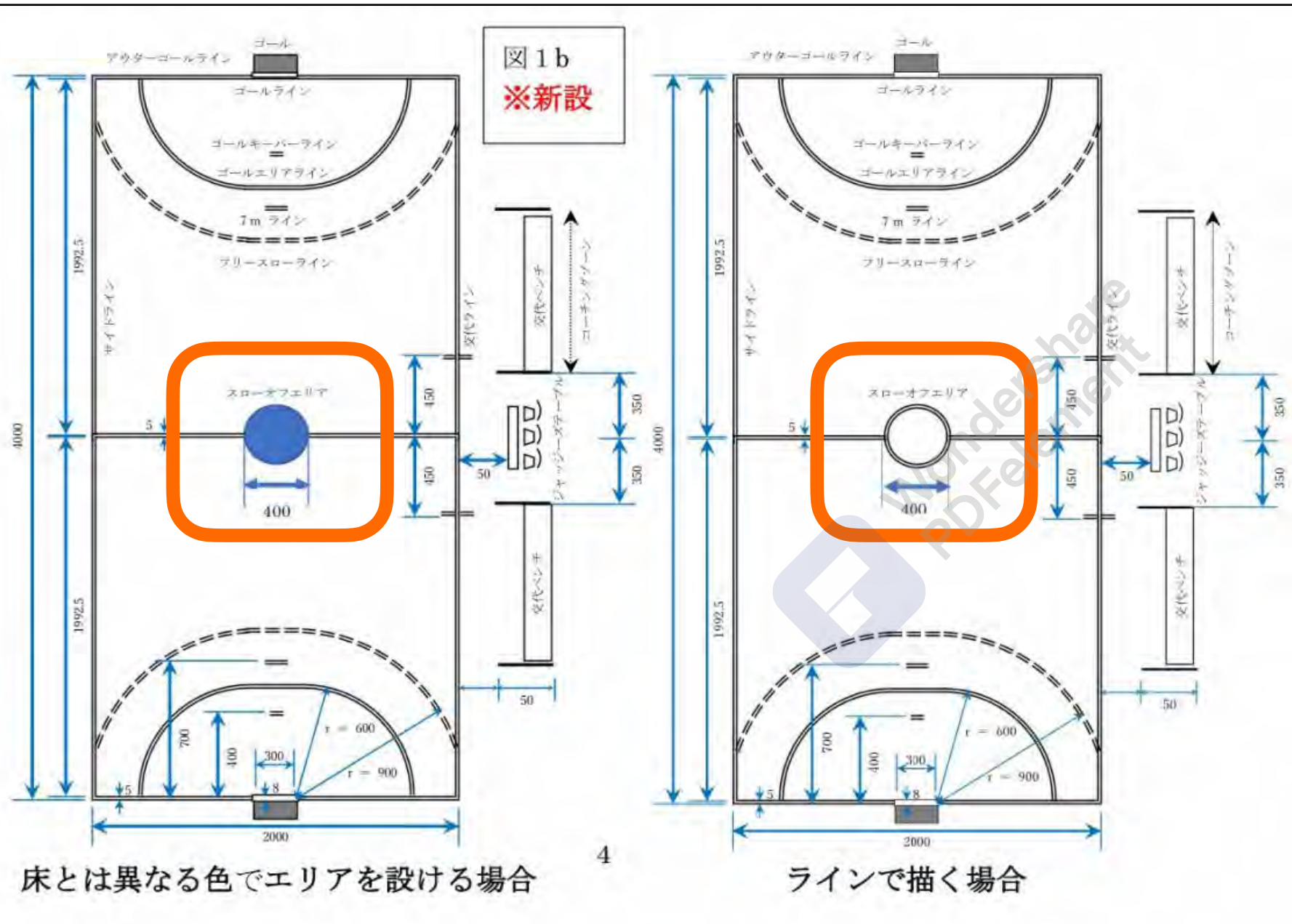
スローオフエリアは、国際ハンドボール連盟主催の大会やシニアのプロリーグにおいては必須とし、大陸連盟大会または国内大会においては、主催者の判断で決定できる。

※条文ではスローオフエリアは「(a)プレーイングエリアの床と異なる色」とあるが、国内大会においては、直径4mの円を描くことも認めることにします。

※スローオフエリアのコートを採用しない場合は、今まで同様センターラインを引くことになります。(図1a)

※スローオフエリアのコートを採用する際、コート中央に、広告・チームマスコット等を掲示する場合は、スローオフエリアのサイズに合わせて、直径4mに合わせて作成することを推奨します。

※令和4年(2022年)度内に、スローオフエリアのコートを採用する各全日本大会の主催者は、ブロックおよび都道府県における予選大会のあり方も決まってくるので、スローオフエリアのコートを使用することを大会要項に明記し、通知してください。



スローオフエリアのコートでのスローオフの実施方法

- (a) スローオフエリアからどの方向へもスローオフを行ってもよい。
笛の合図から 3 秒以内にスローオフを行わなければならない。
 - (b) ボールがスローオフエリアの中にあり、少なくともスローオフを行うプレイヤーの片足がスローオフエリアの中にあるとき、レフェリーはスローオフの笛を吹くことができる。
 - (c) スローオフを行うプレイヤーは、スローオフが完了したとみなされるまで、スローオフエリアラインを踏み越えてはならない。
 - (d) スローオフを行うプレイヤーは、スローオフエリアの中でボールを持って動くことが許される。ただし、笛の合図の後にボールをドリブルすることは許されない。
 - (e) スローオフを行うプレイヤーは、スローオフを走りながら行うことが許される。ただし、実施中にジャンプをすることは許されない。
- ※レフェリーの笛の合図後の不正なスローは、やりなおしではなく、相手チームにフリースローを与える。あるいは、レフェリーが笛を吹いて競技を中断する前に、スローを行うプレイヤーのチームがボールの所持を失った場合、そのまま競技を継続させる。(競技規則 15 の 7)

スローオフが完了したとみなす判断基準

- ・スローを行うプレイヤーの手からボールが離れ、さらにボールがスローオフエリアラインを完全に通過したとき。

※この判断基準は、**ゴールキーパースローと同じ定義**となります。

(競技規則 12 の 2 ゴールキーパーの投げたボールがゴールエリアラインを完全に通過したとき、ゴールキーパースローを行ったと見なす。)

- ・スローを行うプレイヤーからパスされたボールを、**味方のプレイヤーがスローオフエリアの中で触れた、あるいはコントロールしたとき。**

スローオフ実施中のスローを行うチームのプレイヤーの位置

スローを行うチームのプレイヤーは、スローオフエリアの中を除き、笛の合図よりも前にセンターラインを踏み越えてはならない。もしも、センターラインを踏み越えていたならば、レフェリーは位置を正してからスローオフの笛の合図を行う。



スローオフ実施中の相手チームのプレイヤーの位置

スローオフを行うチームの相手チームのプレイヤーは、スローオフが完了するまで、スローオフエリアの外にいななければならない、スローオフエリアの中でボールやスローオフを行うプレイヤー、およびその味方のプレイヤーに触れることはできない。ただし、スローオフエリアのすぐ外にいてもよい。相手チームのプレイヤーが、違反した場合は、競技規則 8 の 7 (c) によりスポーツマンシップに反する行為として罰則が適用される。



2022年7月1日より運用については各連盟の判断

4 パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更

変更前 最大6回のパス→ 変更後 最大4回のパス

レフェリーはパッシブプレーの兆候を察知したとき、予告合図（ジェスチャー 17）を示す。これにより、ボールを所持しているチームはその所持を失わないように攻撃方法を改める機会を得る。

予告合図を出した後も、ボールを所持しているチームが攻撃方法を改めなかったときは、レフェリーはいつでもパッシブプレーの判定をすることができる。最大 4 回のパスの後、攻撃側チームがシュートをしなかった場合、相手チームにフリースローを与える。

パスの回数についての判定は、レフェリーの事実観察や判断に基づく。

プレーヤーが明らかな得点チャンスを意図的に放棄するなど特定の状況において、レフェリーは前もって予告合図を出していなくても、相手チームにフリースローを判定することができる。



新競技規則変更のねらい

今回の競技規則改正のキーワードは、「よりスピーディーに」「よりエキサイティングに」「よりプレイヤーの安心・安全のために」であると考える。2016年リオデジャネイロオリンピック以降、国際ハンドボール連盟は、60分間観衆を魅了するスピーディーなゲーム展開を求めてきた。その考え方を、「モダンハンドボール」という言葉で伝え、笛による試合の中断を可能な限り減らすためのレフェリングの工夫に取り組んできた。

そして、今回の競技規則改正により、2022 年からは、「モダンハンドボール」に加え、**よりスピーディーな魅力あるハンドボール**を展開し、その中で、多くの得点が求められる際、防御するゴールキーパーの側に立った「**安心・安全**」の視点を追加したものである。

今回の競技規則改正の最大のポイント、『スローオフエリアの新設』『パッシブプレーの予告後のパスの最大回数の変更』は、まさに「**よりスピーディーに**」「**よりエキサイティングに**」を**競技規則に明文化した**とも言える。

スローオフエリアの新設により、スローオフを走りながら実施できるようになることで得点後のスローオフがよりスピーディーになり、攻守の切り替えは目を離せなくなるであろう。従来のコートにおけるセンターライン上でのスローオフの実施の際、スローオフのやり直しの必要な場面として、次のような例が考えられる。例えば、片足または両足がセンターライン上にない、走りながらあるいはジャンプしながらのスローの実施、ポイントに対するディフェンスの位置、ウィングの走り出しが早い、特に相手がゴールキーパーなしで攻撃している時はとても多い。スピーディーな展開の中で、そういった状況を瞬時に判断することは、レフェリーにとって容易なことではなかった。とりわけ、試合終了前の30秒間におけるスローオフでのディフェンスの位置は、勝敗を左右する重大な判定の判断基準である。この点から、スローオフエリアの新設は、スローオフの実施に際して、『正しい判定を導き出すための工夫』としても捉えることができる。

また、**パッシブプレーの予告後のパスの最大回数が6回から4回に変更**されることによって、攻撃側は早くシュートをねらえる局面まで組み立てる必要があり、**意図がない無駄なパス・動きは減っていく**ことであろう。近年の世界選手権のデータによると、パッシブプレーの予告合図後、男子では 2.9 回、女子では 2.5 回のパスで攻撃を終えている。また、約 82% が 4 回以内に攻撃が終了しているというデータがある。（1 回の攻撃にかかる平均時間は、男子では 35.3 秒、女子では 30.8 秒。1 試合平均の攻撃回数の平均は、男子では 51.0 回、女子では 58.5 回。）こういったデータから、長時間の攻撃や攻撃の遅延を避けて、より素早い攻撃や防御への移行のため、パッシブプレーの予告後のパスの最大回数を 4 回とした理由の 1 つであると考えられる。

次に、**『ボールの大きさについて、松ヤニの使用の有無で分類』**するように変更されるのは、よりボールをコントロールしやすくし、**巧みなプレーを生み出し**、よりエキサイティングなハンドボールにつなげたいというねらいがあるからであろう。また、松ヤニを使用してきたことに伴う、プレーヤーの安全面（目に入る）や、ユニホーム・床・ゴールその他の施設への影響の面から考えても、安心・安全な競技運営にもつながるであろう。

最後に、『ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用』は、**ゴールキーパーの安心・安全につながる**改正と言える。従来は、ゴールキーパーの頭部へボールをぶつける行為について、7mスローの時のみ失格を適用するかどうかの判断しかできなかった。スピーディーな展開が繰り広げられていく中で、当然ながら得点機会も多くなる。ゴールキーパーへの負担もこれ



まで以上に考慮していかななくてはならない。今回の改正によって、従来の7mスローの時の失格の適用に加え、明らかな得点チャンスの際、シュートを打つプレーヤーとゴールキーパーの間に、防御側プレーヤーが誰もいない状況で、ゴールキーパーの頭部へボールが直撃した場合、**2分間退場の適用という選択肢が増えることになる**。そのことは、ウィングシュートや速攻時など、従来のルールでは罰則の適用条文はないため、単に「ナイスキーパー」で終わっていた状況から、ゴールキーパーの安心・安全を守る術を持ったルールへの改正と言える。このことは、シューターにとって、ゴールキーパーの頭部付近へシュートを安易にねらえない心理的な歯止めとなるとともに、**ゴールキーパーの頭部にボールをぶつけないようにシューターには回避義務があることを明文化したとも言える**。

このような今回の競技規則改正により、さらなる競技の発展につながり、ハンドボールをする人・観る人にとって、**魅力あるハンドボールがより一層多くの人から愛されるようになればと期待する**。



International
Handball
Federation

IX. Rules of the Game

a) Indoor Handball

Edition: 1 March 2022



Contents

- ① 福岡県協会審判部の新年度事業計画と審判委員会について
- ② 令和4年度の審判員の目標（日本協会より）
- ③ 今後のルール改正の流れについて
- ④ マイハンドボールによる更新登録・新規登録・上級申請について

<http://fukuoka-handball.sports.coocan.jp>

福岡県ハンドボール協会

Fukuoka Handball Association Official Web Site



access counter

Since 2002.6.1

001771869

現在の閲覧者数: 00001



This site is link free.

最終更新日 2022年02月25日 (金曜日) 14:43

令和2年7月豪雨で被災された方々にお見舞い申し上げます。新型コロナでたいへんな時期でもありますが、一日も早い復旧をお祈りいたします。

[小学生・中学生でハンドボールを始めたい方の教室やクラブチームを案内しています。](#)

【小学生チーム数】北九州：1 糟屋：1 福岡：5 大野城：1 久留米：1 那珂川：1

【中学生チーム数】福岡市：1 福岡：3 久留米：1

新チームの案内：[香椎ファミリーJr.ハンドボール教室 \(小学生\)](#)

新チームの案内：[HC春吉Jr.中学部女子チーム発足](#)



[令和3年行事予定](#) | [役員](#) | [チーム紹介](#) | [令和3年度登録案内](#) | [競技規則2019](#) | [過去の情報](#) | [リンク](#) | [県協会へメール](#)

種別ブログ	各種別ブログの最新内容（過去の履歴は種別ブログから） 申込書等をダウンロードする際はファイルをPCに「名前を付けて保存」してから記入ください。	
社会人	12/22	EVENT 北部九州地区男女クラブリーグハンドボール大会 要項・申込書等の資料を掲載しました。
大 学	8/11	EVENT 2021西日本インカレ福岡大会の 電子パンレットがOPEN しました。結果速報はこちらから。
	12/04	EVENT 福岡県学生ハンドボール選手権大会（冬季）の途中結果を掲載しています。
高専・高校	12/19	第50回全九州高校選抜ハンドボール競技大会福岡予選会の最終結果（12月19日（日））を掲載しました。
中学校	1/09	令和3年度福岡県ジュニアハンドボール選手権大会要項を大会結果を掲載しました。
小学校	12/25	EVENT 令和3年度九州小学生親善ハンドボール大会福岡県の速報を掲載してます。
県協会事務局	2/25	EVENT 令和3年度福岡県ハンドボール協会評議員会の開催案内を掲載しました。締切は3月7日です。
福岡市協会	10/12	令和3年度福岡市長杯第48回ハンドボール総合選手権大会の中学生の結果を掲載しました。
久留米市協会	10/22	第15回荒木杯久留米市小学生ハンドボール大会の結果を掲載しました。
大牟田市協会	5/21	EVENT 6月のハンドボール教室(小学生)を開催いたします。6月2日(土)14:00～と6月16日(土)14:00～です。詳しくは大牟田市協会ブログから。
北九州市協会	2/26	EVENT 北九州市ハンドボールオープン大会に参加申し込みをされたチームの皆様へ大会中止のお知らせ。
審判部	6/28	マイハンドボールによる申請・更新等の手続きが始まり数か月が経った中で出てきた問題点を改善するために、若干修正された各種申請用紙を今後(7月より)使用するように日本協会より指示が入りましたので、案内いたします。
		競技・審判委員会 公式 YouTubeチャンネル にlinkを貼りました。「2019年度 審判員の目標」、「2018年度 上半期の総括」の動画資料を見ることが出来ます。
ニュース	6/23	東京オリンピックの女子代表選手に福岡県出身選手 永出しおり選手、近藤力春選手2名が選出されました。おめでとうございます。活躍を期待しています。
	6/27	東京オリンピックの男子代表選手に福岡県出身選手 水町孝太郎選手、部井久アダム勇樹選手2名が選出されました。おめでとうございます。活躍を期待しています。

福岡県ハンドボール協会 審判部2021

競技・審判委員会 公式 YouTubeチャンネル

1	マイハンドボールによる更新・申請	(改訂版) R 3 件審判講習会文書・更新登録および各種申請方法の概要 【更新】 マイハンドボール審判登録ガイド 【上級申請】 マイハンドボール審判登録ガイド 【変更】 審判登録（新規および更新）の流れ（202107以降） 【改訂】 終身審判員申請書（202107以降） 【改訂】 D級申請書（202107以降） 【上級申請】 A級申請書（202107以降） 【上級申請】 B級申請書（202107以降） 【上級申請】 C級申請書（202107以降） 公認審判員D級を取得された方へ
2	【審判委員会】	①R3審判委員会組織図 ②審判委員会任務分担 ③R3相互派遣システム ④全国審判長研修会実践発表

マイハンドボール（会員登録システム）

審判登録ガイド

新規申請・年度更新登録用

V1.0（2021年3月作成）

公益財団法人日本ハンドボール協会

2021年度より審判登録方法が変わります！

新システム **マイハンドボール** をご利用ください。

<https://handball.sportscom.jp/>

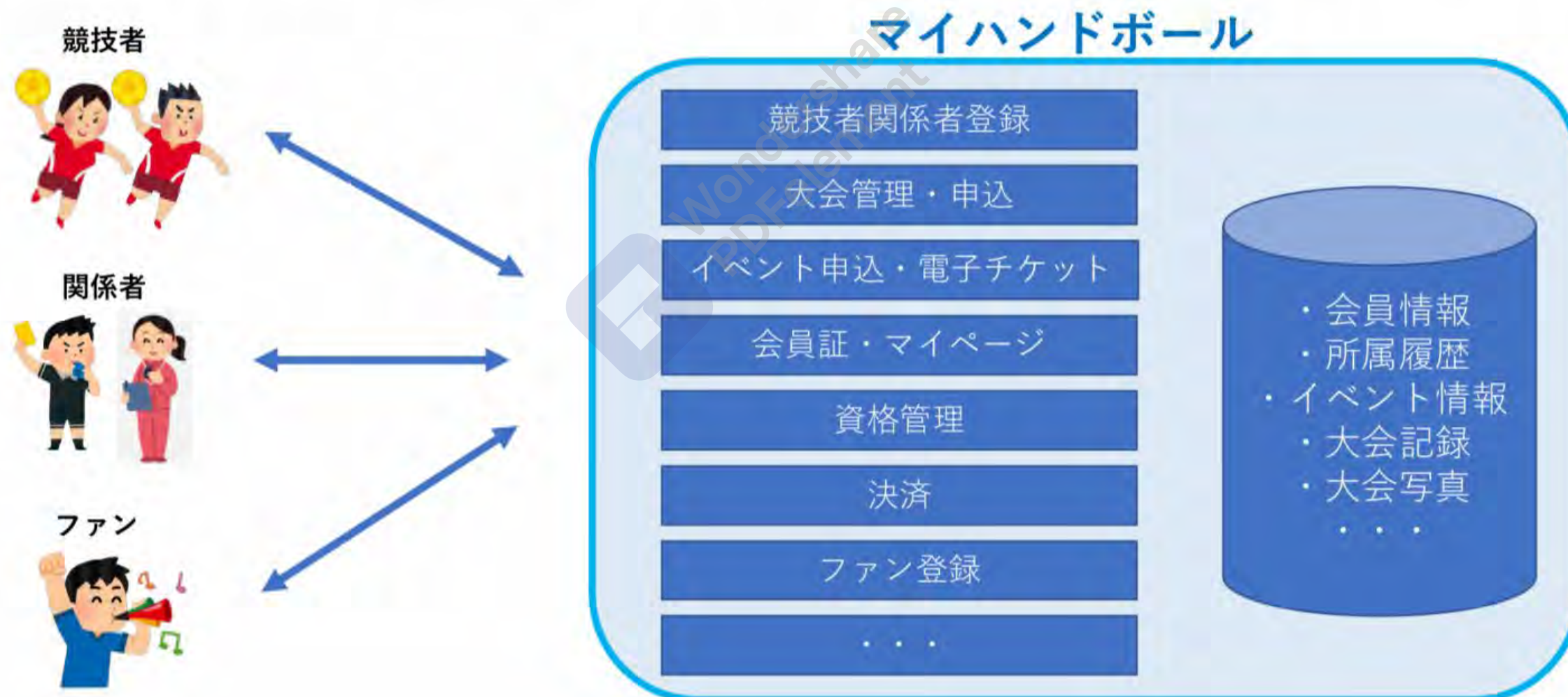
PC,スマホどちらからでもOKです。



※ブラウザでご利用ください（スマホアプリではありません）

マイハンドボールとは

ハンドボールに携わるすべての人たち—する人、見る人、支える人—にさまざまな楽しみ方を提供するためのシステムです。最初は競技者・関係者の登録機能のみですが、順次機能を拡充していきます。登録者が出場した試合の記録や写真を閲覧できるようにするなど、さまざまな機能を準備中です。



2021年度からの変更点

- マイハンドボールで発行される会員ID（MHで始まる10桁の番号）が、審判の登録IDとなります。
旧システムのデータは引き継がれませんので、すべての審判の方（全等級）はマイハンドボールの会員登録が必要です。
- マイハンドボールの会員登録はご自身で行います。（チームメンバーとして登録済みの場合は、新規会員登録ではなく「本登録」を行います。）
- 審判登録料は、ご本人がマイハンドボール経由でお支払いいただくことを原則とします。
※ 都道府県協会によっては、従来の集金の形式をとる場合がございますので、都道府県協会からのご案内をご確認ください。
- 紙の登録証の発行は無くなります。マイハンドボールのデジタル会員証をご利用いただきます。
- 上級審判員を申請する際、「登録証のコピー」の必要がなくなります。

審判登録フロー

年度更新登録（終身・国際・A級・B級・C級・D級）

ご本人のお支払い・申請



①マイハンドボールにログイン

ログインできない方は、P.10～「マイハンドボールへの会員登録」をご参照ください。



②年度更新登録料をお支払い

P.16～「審判登録料のお支払いについて」をご覧ください。クレジット またはコンビニ払いが可能です。

確認

- ・ 都道府県審判委員会が申請を承認
- ・ 入金を確認
- ・ マイハンドボールへの登録

更新完了

- ・ デジタル会員証とマイページに審判等級が表示されます（2021年5月頃 機能追加予定）。

会員証

会員証

公益財団法人日本ハンドボール協会

役

審



会員ID MH00000511

川端 祐貴

生年月日：1979年1月9日（43歳）

性別：男性

会員登録日：2021年03月20日



所属チーム

福岡県ハンドボール協会

所属団体

2021年度 公益財団法人日本ハンドボール協会 都道府県協会役員
2021年度 公益財団法人日本ハンドボール協会 審判新規申請・更新登録
2021年度 福岡県ハンドボール協会 都道府県協会役員
2021年度 福岡県ハンドボール協会 審判新規申請・更新登録
2021年度 九州ハンドボール協会 都道府県協会役員
2021年度 九州ハンドボール協会 審判新規申請・更新登録

保有資格

なし

団体登録有効期限：2022年03月31日

マイハンドボールへの登録が完了すると会員証の出力が可能になります。スマホ等でデータで保持しておいてください。また、ブロック大会や全日本大会では提示が必要となります。



透かしを削除する

Wondershare
PDFelement

令和4年度福岡県協会 ルール伝達及び審判講習会

福岡県ハンドボール協会審判長 川端 祐貴



令和4年3月27日（日）
9：00～10：00

